

平成23年度老人保健健康増進等事業 事業概要

社会福祉法人仁至会 認知症介護研究・研修大府センター

事業名	事業実施目的・事業内容
若年性認知症に対する効果的な支援に関する研究事業	<p>認知症介護研究・研修大府センター（大府センター）では若年性認知症の支援体制を構築するために、愛知県における疫学調査、事業所（産業医）調査、本人と家族の交流会の立ち上げやサポーターの養成およびこれらの継続的支援、障害者支援施設での福祉的就労の試みと評価、若年性認知症専門デイケアで行う適切なプログラム開発と評価、地域包括支援センターにおける若年性認知症相談業務に関する調査などさまざまな取り組みを行ってきた。さらに平成21年10月に、全国唯一の若年性認知症相談窓口として大府センターに開設されたコールセンターに寄せられた相談内容から、認知症高齢者とは異なった若年性認知症の人や家族、関係者のニーズを把握・分析してきた。</p> <p>今年度の事業の目的は、これらを継続・発展させるとともに、若年性認知症デイケアプログラムの普及、地域包括支援センターの若年性認知症相談業務への支援、地域包括支援センターが関わった就労支援事例の把握等である。</p>
施設における認知症高齢者のQOL向上のための多元的アプローチ・リハビリテーションに関する研究事業	<p>認知症高齢者の認知機能を維持し、生活の質（QOL）を向上させる取り組みに関して、これまでに、回想法や音楽療法など非薬物療法の要素を包括的に含み、残された能力を引き出し、自信をつけてQOL改善を目指す、「いきいきリハビリ」や、ミラーニューロンの機序を応用した「にこにこリハ（非言語性コミュニケーションシグナル・リハビリ）」を開発し、その効果検証を行ってきた。「にこにこリハ」は非言語性コミュニケーションのうち、主に視覚情報を使ったりリハビリである。これらを発展させ、視覚情報だけでなく、聴覚情報にも拡張し、さらに有効なりハビリプログラムを開発する。</p> <p>認知症高齢者では、1日の時間帯によって、身体・精神的活動能力や認知機能の変動がみられ、介護そのものの有効性が損なわれたり、介護者の身体的・精神的負担がより増加したりする。高齢者のこのような特性を明らかにしつつ、視覚や聴覚による感覚刺激、運動とコミュニケーションによる刺激を利用し、個々のリハビリプログラムを発展させる、個々のリハビリプログラムを提供する時系列を考慮することで、認知症高齢者の生活の改善と介護者負担の軽減が期待できる、立体的・多次元なりハビリプログラムを確立する。</p>